

第5号様式（第7条関係）

会議録

会議の名称	令和5年度 清須市学校給食アレルギー対応検討会
開催日時	令和5年6月29日（木） 午後3時30分から午後4時45分まで
開催場所	清須市学校給食センター 2階 研修室
議題	1 あいさつ 2 議 題 （1）委員長及び副委員長の互選について （2）学校給食における食物アレルギー対応の基本的な考え方について （3）児童生徒の食物アレルギーに関する集計結果について （4）学校給食における食物アレルギー対応食提供の進め方について （5）その他 3 その他
会議資料	資料1 清須市学校給食アレルギー対応検討会設置要綱 資料2 学校給食アレルギー対応検討会委員名簿 資料3 学校給食における食物アレルギー対応の基本的な考え方 資料4 学校給食におけるアレルギーに関する集計表 資料5 学校給食におけるアレルギーに関する原因食品集計表 資料6 学校給食における食物アレルギー対応食提供の進め方について 令和5年7月学校給食献立表 令和5年7月特定原材料等一覧表
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数 （公開した場合）	0人
出席委員	24人 ○委員長 池田委員（古城小学校長） ○副委員長 清水委員（星の宮小学校保護者代表） ○医師 山田委員（山田医院医師） ○学校長の代表 森委員（新川中学校）及び俣溝委員（春日小学校） ○保護者の代表 小宮委員（西枇杷島小学校）、小川委員（古城小学校）、佐藤

	<p>委員（清洲小学校）、中岡委員（清洲東小学校）、比屋根委員（新川小学校）、山内委員（桃栄小学校）、五嶋委員（春日小学校）、赤塚委員（西枇杷島中学校）、嶋谷委員（清洲中学校）、丸山委員（新川中学校）及び堀井委員（春日中学校）</p> <p>○養護教諭の代表 小澤委員（西枇杷島小学校）、境委員（新川小学校）、熊澤委員（星の宮小学校）及び篠田委員（清洲中学校）</p> <p>○給食主任の代表 富樫委員（清洲小学校）、石川委員（桃栄小学校）、手崎委員（西枇杷島中学校）及び小林委員（春日中学校）</p>
欠席委員	<p>1人 山村委員（清洲東小学校長）</p>
出席者（市）	<p>3人 ○教育委員会事務局教育部学校教育課 天竺教育長、石黒教育部長及び瀬尾学校教育課長</p>
事務局	<p>3人 ○学校給食センター管理事務所 吉田学校給食センター管理事務所長、大音栄養教諭及び水口栄養教諭</p>
<p>会議の経過 (進行 吉田管理事務所長)</p> <p>○連絡事項</p> <p>1 あいさつ 天竺教育長あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 委員長及び副委員長の互選について（資料1及び資料2参照） ○委員長に池田委員（古城小学校長）を互選した。 (池田委員長あいさつ) (進行 吉田管理事務所長⇒池田委員長) ○副委員長に清水委員（星の宮小学校保護者代表）を互選した。 (清水副委員長あいさつ)</p> <p>(2) 学校給食における食物アレルギー対応の基本的な考え方について（資料3参照） (資料3に基づき、吉田管理事務所長説明)</p> <p>○質疑応答なし</p> <p>(3) 児童生徒の食物アレルギーに関する集計結果について（資料4及び資料5</p>	

参照)

(資料4及び資料5に基づき、水口栄養教諭説明)

○質疑応答

- ・中岡委員（清洲東小学校保護者代表）

アレルギーの原因食品についてですが、病院で診断されたものだけを食物アレルギーとして位置づけているのでしょうか。診断がない場合でも、その食品を食べると痒みなどが出たことを学校にお伝えしたところ、除去してもいいと言っていただきました。こういった対応は、各学校の判断で行われているのか、それとも市として統一的なアレルギー対応の考えとしてしているのか教えてください。

- ・吉田管理事務所長

本市の小中学校では、毎年、児童生徒の保護者に対して「学校給食にかかる食物アレルギー調査」を行っています。その中で「どのような食品で、どのような症状が起こりますか」という設問をさせていただいております。そこに記載された「健康上に異変が起こる食品」については、当然各学校で把握していただいておりますので、食べなくても良いという判断をしていただいていると思いますが、ケースごとに状況が異なりますので、給食センターとして市内12校に対し統一的な基準は示しておらず、個別のケースについては、養護教諭の先生や給食主任の先生と会議の場などで調整し対応している状況です。

- ・佐藤委員（清洲小学校保護者代表）

私たちの頃は、給食の献立として出たものは全ていただくという考え方だったと思いますが、現在は、親御さんから何らかの理由が示されれば、食べるのを避けようという考えなののでしょうか。

- ・俣溝委員（春日小学校長）

バランス良く食べる指導はしていますが、児童の体調や親御さんのご意見も考慮しながら、話し合いの中で、無理に食べなくても良いという判断をする場合もあります。

- ・森委員（新川中学校長）

中学校でも同様に、無理に食べさせる指導はしておりません。アレルギーという課題もありますが、昨今では、宗教的な要因で、ある一定の食材を口にできないようなケースもありますが、その場合も無理に食べさせることはしておりません。

- ・山内委員（桃栄小学校保護者代表）

「乳糖不耐症」の疑いがあり、学校に相談したところ、「乳糖不耐症」の場合、アレルギーとしての対応は難しいと言われました。

- ・山田委員（山田医院医師）

「乳糖不耐症」は、幼い年齢層に多く見られます。腸の粘膜がまだ未熟なために起こるもので、乳アレルギーではないです。腸の調子が良いときは摂取できますが、腸の粘膜の防御力が落ちているときに摂取すると下痢などの症状が出てしまいます。給食の牛乳を絶対に全部飲まなくてはならないということではないと思いますし、乳製品全てに症状が出るということであれば、年間で乳を抜くということではなく、体調が悪く飲まない方がいい場合に、医師の診断書が必要であれば取った上で、一定期間摂取を控えさせたいことを学校に伝えてもらえばと思います。
- ・五嶋委員（春日小学校保護者代表）

牛乳は以前から、必ず給食で出されていますが、牛乳が必ず出されることに疑問を感じています。給食だよりも「牛乳を摂りましょう」「カルシウムいっぱい」のような記載がされていますが…。
- ・山田委員（山田医院医師）

牛乳だけでカルシウムを摂ろうというのは、少し考え方が古いように感じます。ただ、学校給食では、提供された献立を食べる形となっているため、牛乳を無くすことは少し難しい面もあるかと思います。外国のように好きなものを自分で取って食べる形となると少し話が変わってきますが、当面は日本での給食の提供のしかたを考えると牛乳は出されるものと考え、その牛乳に対してどうするかということになっていくと思いますが、カルシウム＝牛乳という考え方は、崩れてきているとは思いますが。
- ・五嶋委員（春日小学校保護者代表）

子供たちがもらってくる学校からのお手紙では、未だに牛乳が栄養価の頂点にいるような書かれ方になっていて、「牛乳絶対飲みましょう」というのは、もうそろそろいいんじゃないかと思っています。
- ・吉田管理事務所長

学校給食の場合、栄養教諭が学校給食摂取基準や関連法令に則って献立を立てていきます。その中で、カルシウムの摂取に関しては、まだ牛乳に重きが置かれているところがあり、学校給食から牛乳を無くすですとか、減らすとかということは厳しいのが現状です。
- ・丸山委員（新川中学校保護者代表）

資料5の学校給食におけるアレルギーに関する原因食品集計表ですが、新川中学校のアーモンドと山芋のところは0人となっていますが、うちの子どもは、その食品にアレルギーがあります。正しく集計されているのでしょうか。
- ・吉田管理事務所長

集計については、保護者の方に提出していただいた「アレルギー調査票」を基にエクセル表で抽出し行っていますが、食品名が類似の品目で記載さ

れて、その他の欄にカウントされてしまった可能性があります。申し訳ありません。再確認させていただきます。(確認後の資料をホームページに掲載) また、今年度の「アレルギー調査票」のアレルギー食品名記入欄について、このような間違いが起こらないよう、検討していきます。

(4) 学校給食における食物アレルギー対応食提供の進め方について(資料6参照)

(資料6に基づき、大音栄養教諭説明)

○質疑応答なし

(5) その他

- ・吉田管理事務所長
令和4年度から「献立表の様式変更」と「特定原材料等一覧表の作成配付」を行ったところですが、この変更等について、学校現場のご意見を伺いたいので、お願いします。
- ・小澤委員(西枇杷島小学校養護教諭)
食物アレルギーを持つ児童が多い中、個人ごとの一覧を毎日作成するのですが、その作業に「特定原材料等一覧表」が役立っています。
- ・境委員(新川小学校養護教諭)
変更後、混乱もなく、保護者の希望に応じて「特定原材料等一覧表」だけを配付させていただいたり、もう少し細かい内容を希望される方には成分表を配付させていただくなど、臨機応変に活用しています。
- ・佐藤委員(清洲小学校保護者代表)
学校では、献立や食物アレルギーについて、児童生徒が教わるような時間はあるのでしょうか。
- ・俣溝委員(春日小学校長)
家庭科の授業では、献立表に記載されている材料の働きである1群ですとか2群ですとかというのは勉強します。自分で献立を立てみようという取組を行ったりする中で、今の献立表が役立っています。
- ・佐藤委員(清洲小学校保護者代表)
今回この会議に参加させていただき、アレルギーのない子供たちが食物アレルギーについて知る機会があると良いのではないのでしょうか。
- ・山田委員(山田医院医師)
医師の立場から話をさせていただくと、1クラスに1人食物アレルギーの子がいたとすると、他の子供たちがそういう子がいることの理解を深めてもらうために、ホームルームなどの時間に、誰がとかそういうことではなくて、「アレルギーを起こす食品を食べてしまうと大変なことが起こるんだよ」とか、「もしそういうことが起こったらすぐに先生に知らせるんだ

よ」というような話を年に1回でも行ってもらえると子供たちに少しずつ浸透していくのではないかと思います。

3 その他

〈山田委員（山田医院医師）への質問〉

- ・ 山内委員（桃栄小学校保護者代表）

食物アレルギーに関して医療機関を受診しても、なかなか検査をしていただけないのですが…。

- ・ 山田委員（山田医院医師）

例えば、血液検査をして陽性が出て症状が出るのはわかるんですが、陽性が出なくても症状が出ることもあります。簡単に言うと血液検査というのは、6ミリ程度の濾紙に血液をかけて反応を見るものになりますが、その中で反応しにくいタンパク質があって、そうすると検査が当てにならないのではないかということにもなってきました。アレルギーを専門としている我々としては、検査は、あくまでも目安で、本人さんが訴える症状が正確だというのがあって、アレルギー症状が出る、出ないというのは量的な部分もあるので、専門外の先生だと陽性の反応が出なかったときの対応が難しい面があると思います。また中には、「うちの子にどんな食物アレルギーがあるか調べてほしい」と言われる親御さんがいますが、それはやりません。なぜかという、検査は確定的なものを見るのであって、例えば、全部検査をやっても陽性が出なくても食べられないものもあるかもしれませんので、あやしい食品についてのみ行います。

- ・ 五嶋委員（春日小学校保護者代表）

アレルギーの検査には度合いがあると思いますが、卵の反応が体調の悪いときに食べると出るかもしれないという結果だったんです。ただ、卵が大好きで、とてもたくさん食べるんですが、こういった場合、いつかは症状が出るのか、成長するに従って出てこなくなるのか、体調の悪いときだけ注意すれば良いのか、どんなものでしょうか。

- ・ 山田委員（山田医院医師）

アレルギーの検査には、1から6までのランクがあります。5、6の数値の場合は、99%症状が出ると思われれます。卵の場合、加熱すればするほど悪さをする力がどんどん落ちます。生卵が一番症状が出やすいので、体調の悪いときは加熱した卵にする方が良いです。また、成長によって腸の粘膜はしっかりしてきますが、体調の良いときは避けた方が良くないかと思えます。

- ・ 吉田管理事務所長より

委員の皆様にお願ひです。今年度中の当検討会の招集は、今のところ予定をしていませんが、緊急に検討会を招集する必要が生じる場合もございま

す。その際は、ご協力いただくようお願いいたします。

○閉会（午後4時45分）

会議の結果	会議の経過に示したとおり
問い合わせ先	教育委員会事務局教育部学校給食センター管理事務所 052-400-7925